

## 4 しいたけ生産体制強化緊急対策事業(第1報)

予算区分：県単  
担当科名：生物資源科

研究期間：平成14～16年度  
担当者名：宗田 典大  
坂本 雅邦

### ．目的

近年の県内産しいたけは、外国産の輸入急増により価格が低迷しており、増収および品質向上による経営体制の強化が急務である。

このため、新しい技術の導入と普及指導等による生産面での技術的なサポートを強化することにより、効率的かつ安定的な生産と品質の向上を実現し、生産者の経営安定を図る。

### ．調査方法

生産者のシイタケ栽培管理について、生産者4戸(金沢市1戸、小松市2戸、河内村1戸)の温度管理およびシイタケ収穫量の調査を行った。また林業試験場においても栽培試験を行った。供試した菌床は、石川県菌床椎茸生産組合で3kg詰で製造し、18℃で40～50日間培養したものを用いた。菌株は、当林業試験場開発のLE33およびH社品種Aを使用した。菌床シイタケの栽培方法は上面栽培法で行ない、温度管理および発生処理などは、各生産者の通常の管理をするよう依頼した。各生産者の栽培舎内温度および菌床の内部温度の記録のために温度計(T&D TR 72S、TR 52)を設置し、温度の管理状況を記録した。収穫量調査は接種から約190日間に収穫した量をLE33、H社品種Aそれぞれ100個について各生産者、林業試験場で行った。収穫量はサイズ別に集計された個数から、推定される重量を比較した。

### ．結果

最高最低温度および1日の温度変化など、生産者により温度管理状況の違いが観察された。また収穫量も各生産者および林業試験場で違いが見られた。

菌床の管理温度と収穫量との関係について、袋カットまでの菌床内部の1日の最高温度を積算した温度(以下：積算温度)と収穫量について検討したところ、LE33では2次培養開始から袋カットまでの積算温度の増加に伴ない、収穫量が増加したが、積算温度が約2400℃以上になると収穫量が減少する傾向が見られた。H社品種Aでは、積算温度の増加に伴う収穫量のピークは見られなかった。

このことから、シイタケの収穫量と積算温度の関係について、今後精査する計画である。